

### 第3回 佐伯市立幼稚園及び小・中学校教育問題検討協議会 議事要旨

1 開会

2 会長挨拶

宮崎会長が挨拶を述べた。

3 説明・報告

第2回協議会について

配布資料を基に事務局が第2回協議会の内容について報告をした。

4 議事

(1) 市立小・中学校の再編（統廃合等）に関するアンケート調査の結果について

配布資料を基に事務局がアンケート調査の結果を説明し、質疑応答を行った。その後、各委員が佐伯市立小・中学校の再編の必要性及びその理由について意見を述べ、この協議会において小学校、中学校とも再編の検討を進めていくことを確認した。

【質疑応答】

委員	<p>学校の予算は、生徒数や学級数で決められているのか。学校が統合してなくなった場合、その分の予算が統合される学校にいくということはあるのか。どういうふうに学校の予算、先生の数は決まるのか。</p>
事務局	<p>学校の予算については、維持管理的な最低限必要な部分は全ての学校で要求をしていく。それとは別に施設の整備については、今年度中学校の特別教室のエアコンの設置をしており、こういう場合は、全ての学校に同じように配分しているが、必要などころに必要な分をつけるというのが正しい仕方だと思う。統廃合後のことについては、統合すれば、施設整備も必要になってきたり、必要なものもあつたりするので、その分、全てが上乘せされるというわけではないが、当然増えることになると思われる。</p> <p>交付税措置については、学校数、学級数、児童生徒数に応じてくるような形になっているので、学級数や学校数が減ると歳入としては減るということになる。</p> <p>統廃合すれば、スクールバスなどの予算は増えるが、スクールバスについても交付税措置がされており、その分に対しては歳入があるので、そういうところの心配は考えていない。</p>
事務局	<p>教職員の数については、児童生徒数による学級数で教員の数が決まるということになる。</p> <p>40人学級が昔の標準だったが、国が、編成を変えてきて、来</p>

	<p>年が中学校1年生までが35人学級、35人で1クラスという編成になっている。中学校2年、3年は、まだ40人学級のままだが、令和9年度は中学2年も、令和10年になると中学3年も35人で1クラスという形になる。</p> <p>例えば、45人の児童生徒がいれば、2クラスになる。人数によってクラスが決まる。そのクラス数に応じて、教員の数が決まるという仕組みになっている。あと県の方から加配が何人という形で降りてくる。これは必ずしもその学校につくというものではない。例えば規模の大きい学校になると、生徒指導加配、教科担任制推進教員、児童生徒支援加配、指導方法工夫改善加配ということで加配される先生がいる。国で決められた表があり、35人で1学級、その学級数に応じた教員が配置されるという形となる。</p> <p>ただ、大分県が独自に措置しているというところもある。国では35人学級を進めているが、大分県の独自の取組で小学校1、2年生、それと中学校1年生については30人で1クラスといった形での定数を定めている。</p>
事務局	<p>予算について補足で、統合されて増えるかというところだが、単純に今の部分が増えるということはずまない。ただ、施設整備の面でいくと、たくさんの学校が古くなっていて、全部を整備することはできない。維持補修的なことしかできない。</p> <p>統廃合になると、財源が有利な補助金等もあるので、それなりに大きな改修などもできるので、そういった面ではかなり有利になってくるので、当然、財源を投じて、施設の整備とかは予算的には確保できるということになる。</p>
委員	<p>学校に行くと、担任と副担任という話があるが、例えば、10人ぐらいのクラスでも、担任と副担任はつくのか。</p>
事務局	<p>どちらかというところ、小学校の方が人的配置上は厳しい状況にあると感じる。中学校は、例えば、3クラスの学校であれば、教職員の数が確か7人になる。担任が3人となり、7人職員がいれば、4人担任外の先生がいるので、学年に副担任とか学年主任とかをつけることができる。ただ小学校の場合は、規模の小さい学校であれば、担任の先生が6人いて、あとは校長先生、教頭先生、あともう1人、どなたかがいるかいないかというような配置になる。標準の定数配置でいくと。そこに加配などが入ることで、担任外の先生がでてくる。</p>

## 【再編に関する主な意見】

- ・子どもが減り、アンケート結果を見ても、統廃合する方向であるということはやむを得ない。子どもたちが困らないように、滑らかに移行するように工夫、配慮する必要がある。
- ・小学校は、将来にわたって、安定した教育環境を維持するための一つの選択肢として、再編は必要と考える。中学校は、専門的な指導体制が重要。
- ・子どもたちの人数の減少、財政の問題、アンケート結果から再編をせざるを得ないと考えた。大規模校への対応など配慮が必要。
- ・積極的に賛成ということはない。統廃合は仕方がないと思う。子どもたちの人数が減るからということで機械的に統廃合することはやめてほしい。学校づくりの特色を考えて、全体構想を踏まえた再編をしてほしい。
- ・小学校も中学校も再編は必要。今在学中の小・中学生にもこれから入学する子どもたちのためにも再編して、教育環境を整備することが必要。
- ・再編が必要だと考えている。アンケート結果、小学校も中学校も6割以上の保護者が、やむを得ない、賛成としている。その理由として、多様な意見に触れさせることができるなどをあげられているが、ここが私も再編が必要な理由だと考える。
- ・児童生徒数の推移を見ても、どの学校も減っていくのは間違いない。統廃合は仕方がない。登校手段の整備も同時に必要。
- ・統廃合は、致し方ない。しかし、通学の負担、保護者の対応も大変になる。統廃合になったときには、事前に子どもたちの交流ができればよいのではないか。
- ・統廃合は誰のために、何のためにするのかということをしっかり整理する必要がある。子どもにとってどんなより良い学びが受けられるかということを中心に、考えないといけない。
- ・今、自分で考える、課題解決をしていく、そして人と協働しながら学んでいく、多様な意見を聞きながら自分の考えを深めていくというふうに学びがシフトしている。チームで学ぶとか協働的に学ぶという意味を考えたら、小規模校は子どもの学びが制限されてしまう。
- ・アンケートを見ると再編やむなしと思う。学校は教育機関であり、教育機関の役割は学習指導要領に基づいている。そこには、個別最適な学びと協働的な学びという2本柱がある。国の方針に基づいた学ぶ場を保障するためには、1つの学校、1つの学級にある程度的人数が必要ではないかと考える。
- ・統合を急がず、時間をかけて、その2つの学校の子どもたちが交流し、新しい環境になじみ、知り合いを作っていくような機会を設けるなど、丁寧なプロセスをしながら、統合をしてもらいたい。
- ・総合的な学習の時間などいろいろな機会を設けて、廃校になった地域にも足を

運び、そこでの地域の文化を学ぶなど教育方面で地域を大事にしてもらいたい。

- ・統廃合については、もうせざるを得ない。中学校では、規模が大きくなると、特別支援教育の充実が可能になる。また、専門教科の先生の配置、さらに、複数の教科担当が配置される。そのほか子どもが増えることで学校行事等が充実する。
- ・中学校は少し急ぎ、小学校は例えば小学校 1 年生の段階までは地域で通いつつ、学年が上がるに従って大きな学校に通うようになるなど、分校化的な、少しゆとりを持たせた統廃合という考えを持っている。
- ・統廃合するしかないと思っているが、佐伯市がどんな子ども像、どういう子どもを育てたいかということを明確にしなければいけない。また、旧市町村レベルではなく佐伯市全体でどうするんだということを考えないといけない。
- ・通学は、バスやタクシーを増便して、徹底してやらないといけない。また、予算の件について、統廃合をすると維持管理費が余ると思うので、それを教育のための費用に回してもらいたい。
- ・アンケートの結果、賛成意見が多く、反対・慎重派の方でも学級人数としては 5 人は必要というところ、また望ましい学級の人数にしても 10 人以上を望まれていることを考えて、これは今、再編を考えるべき時ではないかなと思う。
- ・今求められるものは、自分の考えをしっかりと持った人材ではないかと思う。それには、いろんな人の意見を聞いたり、価値観に触れ合いながら自分の考えを育てたりしていくことが求められているのではないか。そういう意味で、ある程度スケールメリットが届くような人数は、学校現場、集団生活の中では必要ではないかと感じている。
- ・佐伯市は毎年人口が 1,000 人減って、子どもも 200 人台しか生まれないそういう状況になっている。また財政的な面でも非常に厳しくなっているので、統合はやむを得ないと思う。
- ・大規模校より小規模校の方が児童数の減りが激しい。そうすると、統合したけど、また次の統合をしなければいけないということになる可能性がかなり高い。そういうことを考えて、少なくとも 10 年後ぐらいを見通したような統合を考えたほうがよいのではないか。
- ・今回のアンケート結果を見ても、大規模校の保護者も再編に賛成をしているということで、それはなぜかという、こういう適正な規模の学校であるということが、好ましいと考えられているのではないかというふうに思う。

## (2) 今後の取組について

次回の協議会では、事務局が提示する再編の目的、学習指導要領を踏まえた佐伯市の目指す子ども像や統廃合案などを基に再編の検討を行うことを決定した。

【質問・意見】

委員	再編の目的を考えるにあたっては、佐伯市の教育はどうか、佐伯市の子どもたちをどんな子どもに育てたいのかということがまず頭にあると思う。そのために、現状がこうであるから、目的を達成するためにはこういう環境が必要であるということていくと良いのではないかと思う。
委員	大元の考え方としては、学習指導要領の論点整理等があるので、それを意識しながら、国の方向性、身につけたい力はこうだから、佐伯市の現状と合わせて、学校の在り方を考えるべきだと思う。
委員	校区という発想をいろいろ考えていくのも大事なのではないか。
委員	5年後くらいを見通したら、また統廃合しなければならない。別の市町村で1年生が2回も統廃合で学校が変わったという事例がある。本当は20年ぐらい見通して欲しいが人口がわからないので、せめて10年後を見通して、10年後に20人になってしまうような学校をまだ残すのかというようなことも考えて欲しい。
委員	委員の方々の意見を伺って、中学校の方が喫緊の課題ではないかということと小学校はまだ条件整備がいるのではないかということで、少し中学校の再編の議論を先に進めていくと、少し具体の何かが見えてくるのではないかというふう感じた。

5 その他

第4回佐伯市立幼稚園及び小・中学校教育問題検討協議会の日程は、後日決定し、事務局から各委員に連絡することとした。

6 閉会